

VI 国際交流

久留米大学留学生との交流会

久留米市御井校区まちづくり振興会
青少年育成協議会 会長 副島 豊

1. 地域の概況について

久留米市御井町は高良山の懷に抱かれた、自然と歴史文化、伝統にあふれた街です。高良山には筑後一ノ宮、高良大社があります。また、大学が2校、高等学校3校、中学校3校と高等教育施設の充実した文教地区でもあります。地域では御井校区コミュニティセンターを中心に、40以上もの活動団体があり、活発に活動しています。

2. 青少年育成協議会の活動について

御井校区まちづくり振興会の組織は、総務、地域振興観光開発、生活環境、保健・福祉、教育文化、スポーツ推進の部門に分かれています。

青少年育成協議会は教育文化部門に位置していて、年間を通して様々な事業を行っています。教育文化部門は生涯学習の推進、青少年健全育成、学社融合、文化祭芸能祭の充実、学習サークル育成を目標としています。

・平成20年度 御井校区青少年育成協議会 事業報告（国際交流のみ抜粋）

11 / 26（火） 第8回ふれあい餅つき大会 136名

研修活動 11 / 1 久留米大学外国人留学生スピーチ大会

その他の活動 12 / 13 久留米大学国際交流会

3. 久留米大学との連携・交流について

（1）久留米大学について

久留米大学は6,500人の学生を擁し、500人を越える学生が校区内に居住しています。若者の存在は大きな魅力であり、久留米大学との交流を求めて、校区の各種行事に学生の参加を促すため、色々な対応を行って来ましたが、日本人学生の反応は少なく、久留米大学との交流という面では、殆んど成果を挙げることが出来ませんでした。

逆に、大学側からの依頼で、地元企業出身の校区住民が文学部4年生に「企業と地域社会の関りについて」のテーマで、6年間、年一回講話をしたり、校区の各種団体が、大学施設を借用するなど、散発的な対応に終始していました。

この様な中で、久留米大学や南筑高校の近くを通る久大本線に新駅を誘致する動きが持ち上がりましたが、地元校区では財政的な負担が出来ず、行き詰っていた折に、久留米大学から通学の利便性向上という視点から、一億円を超える資金提供が実現し、平成12年3月11日、現在の久留米大学前駅が建設され、校区住民の夢が果されることになりました。この新駅には、一日約1,500人の乗降客があり、周辺の景観は一変

し、このことで、久留米大学の存在の大きさが、校区住民にアピールされることになりました。

(2) 外国人留学生との国際交流について

ちょうどその頃、御井校区内にある中国人留学生の寮に、地元の自治会長他が招待され、留学生手作りの水餃子パーティを楽しんだことから、300人を超える中国人留学生と留学生の世話を担当する久留米大学国際交流センターの存在が校区側に知られることになりました。これを契機として、校区コミュニティセンターで、年末に行われる餅つき大会に中国人留学生を招待し、交流する行事がスタートしたが、現在は青少協の主催で、御井小学校3年生も参加する国際交流餅つき大会として定着し、盛大に実施されています。

この行事への返礼として、国際交流センターを介して中国人留学生主催の「春節の集い」が御井校区コミュニティセンターで開催され、校区住民も多数招待を受け参加することで、久留米大学中国人留学生と校区住民との交流が図られることになりました。最近では、福岡中国領事館の魏（ぎ）領事や日中親善協会関係者も加わり、盛大な行事として行われています。

このような交流の進展に伴って、久留米大学で行われる留学生の日本語スピーチコンテスト審査員に校区代表が毎回参加する他、国際交流懇親会にも、複数の校区関係者が参加するなど、中国人を中心とする留学生との交流を通して、久留米大学と校区との交流は具体的な実績を積み重ねています。

①久留米大学留学生との交流(会)について

校区の中で大きな存在である久留米大学との交流は不十分でした。この壁を留学生との交流会が突破することになりました。国際化が色々と言われる中で、それらを身近に体験出来ることは、校区住民はもとより、次代を担う小学生にとっても、極めて有意義なことと思います。

併せて、中国人を始めとする留学生には、日本の地域社会の実態を学び、生きた勉強の機会になることを考えると、このような交流活動は校区青少協としても、御井校区独自の活動として、全力を挙げて取り組んで行こうと思います。出来れば留学生との交流活動を通じて、久留米大学を巻き込んで、日本人学生との交流の定着も目指したいと思います。

②春節の集いについて

前述した経緯から、校区餅つき大会招待の返礼という形でスタートし、今年1月30日(土)第7回を迎えますが、昨年、2度目の参加を体験された福岡中国領事館の魏(ぎ)領事も「この様に、中国人留学生が協力して、地域のコミュニティセンターの厨房で、料理を手作りし、地域住民を招待して交流するのは、他で聞いたことがない。」と発言されていた通り、本当の意味での民間交流の実現となっています。

この交流の場では、留学生が馬頭琴や母国の歌を披露し、校区側からは、仕舞などの伝統芸能を提示することも、異文化交流として意義があると思います。

しかし、これらの行事は、すべて日中親善協会の資金提供や一部は留学生のキャン

で行われており、本年度は、校区側の参加各団体からも、任意での資金協賛を行いました。今後、この交流事業を継続するためには、行政からの支援を要請する他、校区側としても様々な形での協力体制を整える必要があると思います。



③久留米大学国際交流懇親会について

中国人留学生を中心として留学生が増加する中で、留学生相互の他、関係者、周辺地域社会との交流を目指して、久留米大学国際交流センターの後援で、国際交流懇親会が行われていますが、キャンパス内で国際交流が体験出来る極めて重要な行事にも関わらず、校区側の招待がごく限られた範囲で、このような行事に不慣れなこともあり、校区側では、消極的な対応になっています。

前述した通り、留学生との交流拡大の重要性を考慮し、御井校区としても被招待者への参加協力要請をはじめ、少しでも多くの人に体験して頂くために、年度毎の交代参加等も検討したいと思います。久留米大学側にとっては、負担となる行事と思いますが、大学と周辺地域との交流拡充の一環として、今後とも是非、継続して頂きたいと思います。

最後に、かつて外国人留学生を受け入れるに当たり、賃貸契約等において多くのトラブルが発生していました。例えばアパートの賃貸において日本では保証人を要求されるが、このような慣習を持つ国は少なく、これは留学生自身に信用を置かれていないとの誤解を招きかねないものでした。しかし上記のあらゆる国際交流の努力は、留学生の日本の社会システムへの理解を深める良い契機となり、交流が浸透するにつれトラブルも減ってきています。

日本に長く滞在する留学生の間でも、互助を通じて日本の文化慣習に対する理解を広める動きがあります。これも文化交流の成果の賜物だと思います。

国際交流は相互の理解から相互の信頼へステップアップしつつあります。今後国際交流を継続することで、地域の発展に寄与出来れば、幸いと考えます。

【問合せ先】

〒839-0851 久留米市御井町387番地

久留米市御井校区まちづくり振興会 青少年育成協議会

TEL : 0942-44-0516 FAX : 0942-44-0568